

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名： 自衛隊精神科医官専門研修プログラム

- プログラム担当者氏名： 戸田 裕之
住 所： 〒 359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
電話番号： 04-2995-1619
F A X： 04-2996-5203
E - m a i l： toda1973@ndmc.ac.jp

- 専攻医の募集人数： (5) 人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先： 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
精神科学講座 医局長 戸田 裕之
TEL: 04-2995-1619
FAX: 04-2996-5203
Email: toda1973@ndmc.ac.jp

- 採用判定方法：
防衛省の規定により実施。

I. 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本プログラムは、防衛医科大学校を卒業した自衛隊医官のうち、精神科を専攻するものを対象としたものである。防衛医科大学校は、医師たる幹部自衛官となるべきものを養成し、かつ、自衛隊医官に対して自衛隊の任務遂行に必要な医学についての高度な理論、応用についての知識と、これらに対する研究能力を習得させるほか、実際の診断、治療にかかわる臨床実習および研究をおこなうことを目的とし、防衛省に設置された組織である。自衛隊医官は、初任実務研修終了後、全国の自衛隊関連施設での約2年間の勤務を経て、防衛医科大学校病院を中心とした施設群で専門研修を3年間実施する。このような自衛隊医官の勤務上の特色に配慮しつつ、到達目標を達成するために、本プログラムでは必要とする研修期間を約5年間に設定している。全国の自衛隊関連施設のうち指導医が在籍している、自衛隊札幌病院、同仙台病院、同横須賀病院、同福岡病院を連携施設とし、指導医が在籍していない、自衛隊岐阜病院、同阪神病院を関連施設に指定している。今後も指導医等の充足を高めて、自衛隊関連施設の連携施設、関連施設化を進めていく予定である。また、指導医が不在の関連施設は、適宜、基幹病院である防衛医科大学校病院の指導医が症例検討会などを通して指導する。

研修基幹施設である防衛医科大学校病院精神科は、26床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室もあり、精神科救急症例、難治例、身体合併症症例など、精神科領域のほとんどのケースに対応している。また、精神科リエゾンにおいては、一般身体科、救急、産科の各領域に分割した専門のグループを持ち、他科入院中の患者の精神面の診療を積極的に行っている。病院の緩和ケアチームの一員として精神科医も加わっており、がん患者とその家族の精神面のケアにあたっている。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し画像検査、生物学的検査、血液検査、心理検査などをおこない、薬物療法、精神療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。臨床疫学、分子生物学、電気生理学的研究もおこなっており、学会や論文での発表も積極的に実施している。専攻医はこれらの研究に参加して最先端の医学・医療の理解、科学的思考法の体得も可能である。

また、埼玉県立精神医療センター、自衛隊中央病院、医療法人社団薫風会山田病院、医療法人みどり会武里病院、医療法人啓仁会平沢記念病院、六番町メンタルクリニックといった埼玉・東京エリアの医療機関を連携施設として有しており、専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。さらに、全国の自衛隊病院とも連携しており、自衛隊の精神医療に特化した内容や産業メンタルヘルスについても、特に、深く知識を習得することが可能である。

以上より、本研修プログラムを通して精神科領域専門医の目標である、①患者や家族の苦悩を受け止める感性と共感する能力を有し、その問題点と病態を把握し、治療を含めた対策を立てることができる、②患者・家族をはじめ多くの職種の人々とのコミュニケーション能力を有し専門性を発揮し協働することができる、③根拠に基づき、適切で、説明のでき

る医療をおこなうことができる、④臨床場面における困難に対し、自主的・積極的な態度で解決にあたり、患者から学ぶという謙虚な姿勢を備えている、⑤高い倫理性を備えている、のいずれについても十分に達成することが可能である。さらには、自衛隊医療の特性や自衛隊の任務遂行に必要な精神医学的事項を研修する機会も十分に設けており、自衛隊の精神科医官としての素養を習得することが可能である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数：22人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2031	797
F1	237	87
F2	2075	639
F3	2727	570
F4 F50	2499	197
F4 F7 F8 F9 F50	264	54
F6	114	33
その他	419	132

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・ 施設名：防衛医科大学校病院
- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：長谷 和生
- ・ プログラム統括責任者氏名：吉野 相英
- ・ 指導責任者氏名：吉野 相英
- ・ 指導医人数：（ 10 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 26 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	554	13
F1	97	0
F2	563	32
F3	639	45

F4 F50	603	14
F4 F7 F8 F9 F50	42	0
F6	54	1
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 当院は病床数 800 床を有する特定機能病院で、15 診療科と 15 中央診療施設として置かれる部及び室で診療を行っている。精神科では、26 床の精神科病床を有し、気分障害（F3）、統合失調症（F2）、神経症性障害（F4）、認知症（F0）などの治療にあたっている。治療抵抗症例に対する修正型電気けいれん療法（m-ECT）も積極的に実施しており、年間の実施回数は 245 件になる。CT（129 件／年）、MRI（145 件／年）、SPECT（27 件／年）、MIBG シンチグラフィ（18 件／年）、脳波検査（750 件／年）、心理検査（53 件／年）などの精神科領域の専門的な検査の実施例も豊富である。身体合併症、リエゾン・コンサルテーションに特に力を入れており、一般身体科・救急・産科リエゾンの三つの独立したリエゾングループを形成して診療している。また、緩和ケアチームにも加わっており、がん患者とその家族の精神面のケアを行っている。

B 研修連携施設：連携施設

① 施設名：埼玉県立精神医療センター

- 施設形態：公立病院
- 院長名：長尾 真理子
- 指導責任者氏名：三上 智子
- 指導医人数：（ 10 ）人
- 精神科病床数：（ 183 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	166	202
F1	71	49
F2	457	236
F3	11	11
F4 F50	235	59
F4 F7 F8 F9 F50	102	28
F6	11	10
その他	21	13

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 埼玉県立精神医療センターは、県内唯一の公立単科精神科病院として、いわゆるスーパー救急病棟 2 病棟（30 床・50 床）、依存症病棟（40 床）、児童思春期病棟（30

床)、医療観察法病棟(33床)の計183床を有し、地域医療機関と機能分担して高度専門医療を行っており、依存症治療研究部も設置している。疾患としては特に、精神作用物質使用による精神および行動の障害(F1)、統合失調症(F2)、心理的発達の障害(F8)、小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害(F9)が症例豊富である。

多職種チーム医療が基本であり、入院初期から退院後の生活を見据えた濃厚な対応(多職種による評価・検討、地域関係機関との連携等)を行い、早期の社会復帰を目指している。また、修正型電気けいれん療法、クロザピン、結核患者収容モデル事業による結核患者の治療も行っている。

スーパー救急病棟は、埼玉県精神科救急情報センターと密接な連携を取りながら夜間休日を中心に措置入院等を受け入れ、また地域の医療機関では処遇困難な患者の診療も行っている。依存症病棟は、アルコール依存症と薬物依存症の治療をおこなう、本邦でも数少ない病棟である。外来・依存症治療研究部と連携し、治療の動機付け・集団プログラム・疾病教育等、断酒断薬の継続のために様々なアプローチを行っている。児童思春期病棟は県内唯一の病棟であり、院内学級も併設されている。外来も含め、教育・福祉等の各機関と連携を取りながら、個別指導・集団療法等をチームで行っている。

教育研究面においては、「教育・研究入門講座」を適宜開催している。当センターは日頃より院内の連携が良好で、研修プログラムも充実しているため、短期間であっても、専門分野に特化した研修・当院全体を網羅した組織横断的な研修等、専攻医のニーズに合わせた研修をおこなうことが可能である。

② 施設名：自衛隊中央病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：瓜生田 曜造
- ・ 指導責任者氏名：宮崎 誠樹
- ・ 指導医人数：(3)人
- ・ 精神科病床数：(50)床
- ・ 疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	18	3
F1	16	2
F2	107	6
F3	440	35
F4 F50	533	29
F4 F7 F8 F9 F50	8	0
F6	10	1
その他	133	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、地域の保険医療機関として、一般病棟 420 床、29 診療科を有する総合病院であり、身体合併症を有する多数の症例を経験することが可能である。50 床の精神科病棟を有しており、多様な精神疾患の入院治療を経験することができる。また、職域病院として自衛隊員及びその家族の診療を行っており、海外および災害派遣等で勤務中に不調をきたした隊員の最終後送病院として、復職支援の中核病院として、産業精神医学にも力を入れている。

③ 施設名：医療法人社団薫風会山田病院

- 施設形態：単科精神科病院
- 院長名：山田 雄飛
- 指導責任者氏名：河野 純子
- 指導医人数：（ 5 ）人
- 精神科病床数：（ 326 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	135	89
F1	20	22
F2	721	287
F3	671	302
F4 F50	219	39
F4 F7 F8 F9 F50	3	4
F6	11	19
その他	23	19

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、326 床・6 病棟で構成され、精神科救急を対象とした精神科救急病棟、うつ病・神経症などのストレス関連疾患を対象としたストレスケア病棟、また重度認知症疾患を対象とした病棟、社会復帰病棟、慢性期病棟に機能分化され、24 時間 365 日対応できる体制を整えています。

精神科救急病棟では、精神科全般（急性期症状・慢性期の急性増悪・認知症疾患等）の疾患を対象とし、ハード面の設備と医師をはじめとした人員配置が充実しており、症状や状態を把握し治療が円滑に行えるよう医師・看護師・精神保健福祉士・薬剤師・心理士・作業療法士・栄養士等の多職種によるチーム医療を実践しています。急性期症状の回復を優先し、集中的な治療計画に基づき入院から 3 ヶ月までの期間を目安として自宅への退院を目指し治療を行っています。また、外来受診から入院治療、社会復帰、さらには就労を含む地域での生活を支援することまでが一連の流れと考え、入院中から退

院後までを含めた治療プラン「包括的急性期プログラム」（入院からデイケアまで）を提供しています。

外来部門では、デイケア・ナイトケア・デイナイトケア、外来通院者作業療法において、SST や集団認知行動療法、就労準備支援プログラムを行っています。また、医療観察法の指定通院医療機関として、医療観察法対象者に対してガイドラインに則った医療と支援を提供しています。

認知症疾患医療センターを併設し、もの忘れ専門外来や認知症疾患の鑑別診断も行っています。

関連施設には、サテライトクリニック、リワークデイケア、地域活動支援センター訪問看護ステーションを持ち、実践的な地域医療にも積極的に取り組んでいます。

④ 施設名：医療法人 みどり会 武里病院

- ・ 施設形態：私立単科精神病院
- ・ 院長名：大野 智之
- ・ 指導責任者氏名：伊藤 賢一郎
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 274 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	720	400
F1	0	0
F2	0	0
F3	0	0
F4 F50	0	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	0	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
埼玉県私立単科精神病院であり、県指定の認知症疾患センターを併設する認知症専門病院である。身体合併症病棟、老人保健施設、認知症グループホームを併設し、認知症初期集中支援チームを持ち、認知症のすべてのステージに対応可能な、地域認知症治療の中核病院である。

⑤ 施設名：医療法人啓仁会 平沢記念病院

- ・ 施設形態：私立精神科病院
- ・ 院長名：井川 真理子

- ・ 指導責任者氏名：河本 勝
- ・ 指導医人数：（ 2 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 177 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	416	88
F1	6	5
F2	50	49
F3	188	89
F4 F50	206	11
F4 F7 F8 F9 F50	61	3
F6	6	2
その他	172	98

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 177 床を有する精神科病院であり，診療の質を重視していることから常勤精神科医 1 人あたりのベッド数が近隣で最も少ない群に入っている。所沢，入間，狭山，飯能，川越の診療圏内で，精神科急性期治療病棟入院料を算定している 2 病院のうちの 1 つである。設立 15 年目であるが，開院当初から高齢者ケアを重視して活動しており，市内の病院・診療所間の認知症ネットワーク（所沢）で中心的役割を担い，紹介・連携が多い。同一法人，関連法人内には，所沢ロイヤル病院ほか老人保健施設，特別養護老人ホーム，地域包括支援センターなどを有し，保健・医療・福祉を総合的にカバーしている。

精神科病院としては珍しく麻酔科医の勤務のもと，修正型電気けいれん療法 mECT を定期的に実施しており，うつ病ほか様々な疾患に治療成果をあげている。睡眠医学領域では，関東圏の遠方から鑑別診断，PSG, MSLT 検査等のために受診が続き，需要拡大に応じてサテライトで睡眠専門クリニックを新規開設することとなった。

全医師団が参加して臨床的な討論をおこなうケース・カンファレンスを重視しており，各主治医が診断・治療において参考とできるような助言を日常的に得やすい環境にある。入院診療と同様に外来診療を活発に展開しており，質の高い診療を相互にめざすチームのもとで，初診から始まる様々なケースの臨床経験を得ることができる。

⑥ 施設名：六番町メンタルクリニック

- ・ 施設形態：民間クリニック
- ・ 院長名：野村 総一郎
- ・ 指導責任者氏名：野村 総一郎
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人

- ・ 精神科病床数：（ 0 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5	0
F1	0	0
F2	25	0
F3	250	0
F4 F50	200	0
F4 F7 F8 F9 F50	3	0
F6	0	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 当院は東京都千代田区にある精神科クリニックで、うつ病、双極性障害やストレス関連疾患の治療を中心に行っている。JDC 産業メンタルヘルスセンター、JDC 精神療法センターと連携して、職場メンタルヘルス対策支援プログラム「JEMS（JDC Employee Mental health Support Program）」を提供しており、企業のメンタルヘルス対策に力を入れているのも特徴である。

⑦ 施設名：自衛隊札幌病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：千先 康二
- ・ 指導責任者氏名：龍城 敏孝
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 30 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6	1
F1	2	1
F2	37	5
F3	162	16
F4 F50	133	11
F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	5	0
その他	59	1

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、地域の保険医療機関として、一般病棟 170 床、18 診療科を有する総合病院であり、身体合併症を有する多数の症例を経験することが可能である。30 床の精神科病棟を有しており、多様な精神疾患の入院治療を経験することができ、修正型電気けいれん療法も実施している。また、職域病院として自衛隊員及びその家族の診療を行っており、リワークなど産業精神医学にも力を入れている。

⑧ 施設名：自衛隊仙台病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：市来 浩人
- ・ 指導責任者氏名：池本 楽
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 15 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	1	0
F3	20	6
F4 F50	120	10
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	0	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は自衛隊員や家族を対象とした総合職域病院である。精神科ではうつ病や神経症を中心とした診療をおこなうとともに、職域病院としての特性を活かして職場や非医療支援機関と密接に連携した復職支援の実践経験を積むことができる。

⑨ 施設名：自衛隊横須賀病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：柳田 茂樹
- ・ 指導責任者氏名：本間 昭博
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 0 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
----	-----------	-----------

F0	3	0
F1	3	0
F2	13	0
F3	56	0
F4 F50	73	0
F4 F7 F8 F9 F50	3	0
F6	9	0
その他	0	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
職場が近く密に連携が取れるため、現場に即した精神科診療をしている。また、産業メンタルヘルスを中心とした活動をしている。

⑩ 施設名：自衛隊福岡病院

- 施設形態：公的総合病院
- 院長名：大鹿 芳郎
- 指導責任者氏名：小川 哲男
- 指導医人数：（ 2 ）人
- 精神科病床数：（ 30 ）床
- 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6	1
F1	16	2
F2	74	11
F3	162	22
F4 F50	128	12
F4 F7 F8 F9 F50	4	1
F6	8	0
その他	10	0

- 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 - 気分障害圏の患者が多い。
 - 職域病院としての特性上、神経症圏における職場における環境調整も多く、産業医的な関わりを多く経験できる。
 - 病院敷地内に復職支援を目的としたメンタルサポートセンターが存在し、入院患者に対する復職支援のために定期的に合同のカンファレンスを実施している。

B 研修連携施設：関連施設

⑪ 施設名：自衛隊岐阜病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：吉村 一克
- ・ 指導責任者氏名：松永 明希子
- ・ 指導医人数：（ 0 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 22 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	1	0
F2	14	5
F3	54	9
F4 F50	1	1
F4 F7 F8 F9 F50	37	18
F6	0	0
その他	1	1

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、100床を有する総合病院であり、身体合併症を併存とする精神疾患を含んだ様々な症例を経験することが可能である。22床の精神科病棟を有しており、うつ病、統合失調症を中心とした多様な精神疾患の入院治療の実戦経験を積むことができる。

⑫ 施設名：自衛隊阪神病院

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：森崎 善久
- ・ 指導責任者氏名：松井 茉莉江
- ・ 指導医人数：（ 0 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 24 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2	0
F1	5	6
F2	13	8
F3	74	35

F4 F50	48	11
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	0	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）
 - 1) 気分障害圏の患者が多い。
 - 2) 職域病院としての特性上、産業医的な関わりを多く経験できる。
 - 3) 病院敷地内に復職支援を目的としたメンタルリハビリテーションセンター、メンタルサポートセンターが存在し、復職支援について実際に研修できる。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目・2年目：全国の自衛隊関連施設と「通修」先の近隣施設で、精神医学全般の基本的事項と産業精神医学を経験する。

3年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法などのカンファレンス、セミナーに参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

4年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知

行動療法と力動的的精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練をおこなう。院内研究会や学会で発表・討論する。

5年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や医学雑誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

基幹施設では国内外の主要な雑誌を購読しており、インターネットから電子ジャーナルにもアクセスできる。それらを用いて自己学習に励む。

4) ローテーションモデル

本プログラムの対象となる自衛隊医官は、医師免許取得後、全国の自衛隊関連施設での2年間の勤務を経て、防衛医科大学校病院を中心とした施設群で専門研修を3年間実施する。全国の自衛隊関連施設（⑦～⑫等）の勤務の2年間は、当該施設での勤務に加えて、「通修」制度を利用して週二回程度近隣医療機関で研修する。自衛隊関連施設のうち、指導医が常勤している自衛隊札幌・仙台・横須賀・福岡病院を研修連携施設、常勤指導医が不在の自衛隊岐阜・阪神病院を研修関連施設に指定している。また、専攻医の勤務先が決定次第、「通修」先の施設を研修連携施設に指定できるように協力を依頼する。自衛隊関連施設では精神医学全般に加えて、産業メンタルヘルスや自衛隊員のストレス対処などについての経験を積むことができる。この間は、指導医常勤の施設での勤務が主であるが、専門医のみの施設や指導医・専門医ともに不在の施設での勤務の可能性もあり、それに応じて、全体の研修必要期間を4年10ヶ月間もしくは5年2ヶ月間の二通りに設定している（別紙1）。

プログラム3年目8月からは、基幹施設である防衛医科大学校病院とその近隣の連携施設を3年間ローテートする。プログラム3年目は防衛医科大学校病院で精神科医として基本的な知識に加えて、身体合併症症例、リエゾン・コンサルテーション症例などを幅広く経験することができる。4年目は防衛医科大学校病院に加えて、公的な単科病院である埼玉県立精神医療センター（①）を4ヶ月間ローテートする。同センターでは、精神科救急症例や薬物依存症例を中心に経験することができ、児童思春期専門病棟も有しておりその勉強会や症例検討会に参加することも可能である。5年目は自衛隊中央病院（②）での3～6ヶ月間の研修に加えて、精神科救急・地域との連携・リハビリテーションを積極的に実施している山田病院（③）、認知症疾患医療センターである武里病院（④）、認知症・精神科救急・睡眠医学を積極的に実施している平沢記念病院（⑤）を1～3ヶ月ローテートする。六番町メンタルクリニック（⑥）でクリニックにおける診療を経験することも可能である。ローテート施設、期間、順番については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。また、基幹病院である防衛医科大学校病院で中心に研修をおこない研究などへの理解を深めながら、③～⑥の連携施設に週に1～2回程度出向いて各施設の専門的な内容についての知識と技術を深めていくことも可能である。

さらに、今回記載した連携施設以外に、精神保健行政機関（精神保健福祉センター）、矯正施設（川越少年刑務所）などの各専門機関との連携も予定しており、本人の希望に応じて、多彩なローテーションパターンが可能である。主なローテーションパターンについては、別紙2に示す。

5) 研修の週間・年間計画

別紙3と別紙4を参照。

4. プログラム管理体制について

- ・ プログラム管理委員会
 - 委員長 医師：吉野 相英
 - 医師：重村 淳
 - 医師：立澤 賢孝
 - 医師：吉野 文浩
 - 医師：戸田 裕之
 - 医師：佐野 信也
 - 看護師：澤田 喜代子
 - 心理士：佐藤 豊
- ・ プログラム統括責任者
吉野 相英
- ・ 連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

防衛医科大学校病院：吉野 相英
埼玉県立精神医療センター：三上 智子
自衛隊中央病院：丸山 徹
山田病院：山田 飛雄
武里病院：大野 智之
平沢記念病院：河本 勝
六番町メンタルクリニック：野村 総一郎
自衛隊札幌病院：龍城 敏孝
自衛隊仙台病院：池本 楽
自衛隊横須賀病院：本間 昭博
自衛隊福岡病院：小川 哲男

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後研修方法を定めプログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該施設指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1 年後に 1 年間のプログラム進行状況並びに研修目標達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際専攻医研修実績および評価には記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

防衛医科大学校病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）

- 指導医マニュアル（別紙）

・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を終了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医によるとフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

[自衛隊医官の医師免許取得後年次による勤務場所]

3年目6月

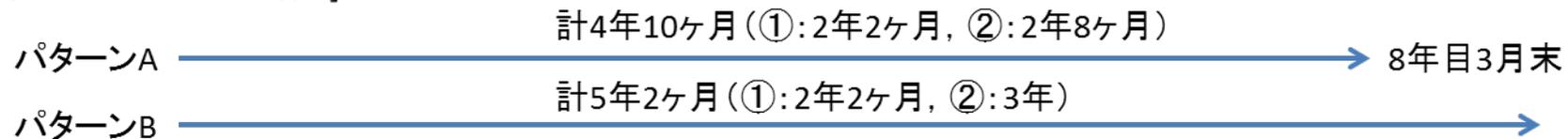
5年目8月

8年目7月末



通修：自衛隊医官が自衛隊関連施設勤務中に、週二回程度部外の病院で研修を受ける制度の事

[本プログラムの期間]

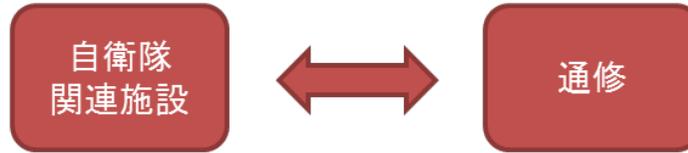


パターンA:①の期間、連携施設と認定されている自衛隊関連施設もしくは通修先で研修

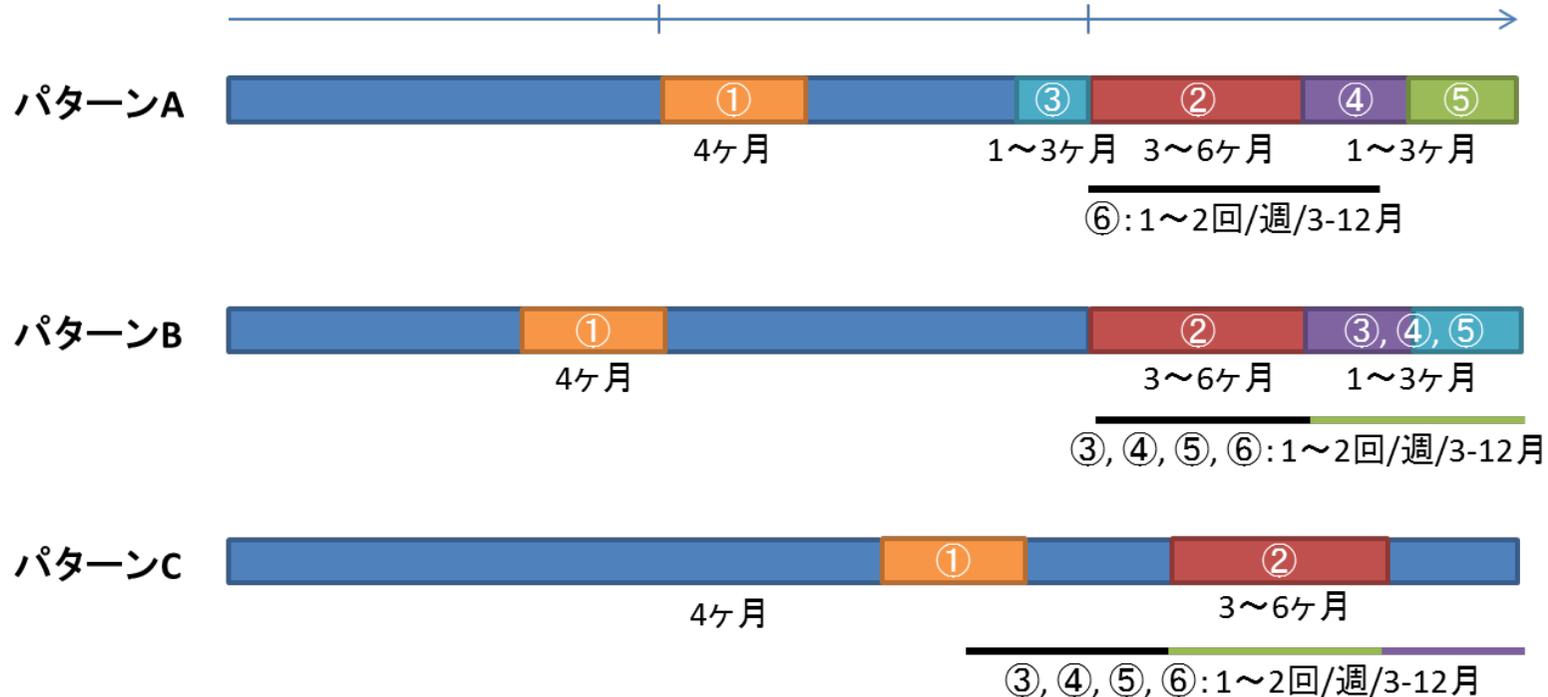
パターンB:①の期間、連携施設と認定されていない自衛隊関連施設と通修先で研修

基幹病院、県立センター、自衛隊中央病院を軸に、専攻医のニーズに応じて多彩な研修パターンを用意可能である。

期間①：卒後3年目6月～5年目8月



期間②：卒後5年目8月～8年目7月



- 防衛医大病院(基幹病院)
 ① 埼玉県立精神神経センター(精神科救急)
- ② 自衛隊中央病院(精神科一般、自衛隊医療)
 ③ 山田病院(地域医療、リハビリ、精神科救急)
- ④ 武里病院(認知症)
 ⑤ 平沢記念病院(睡眠、認知症)
 ⑥ 六番町メンタルクリニック(外来、クリニック)

基幹施設：防衛医科大学校病院

	月	火	水	木	金
08:30-09:00	朝回診	朝回診	朝回診	朝回診	朝回診
09:00-12:00	病棟業務 mECT	外来再診	病棟業務 リエゾン mECT	外来初診・ 予診	病棟業務 リエゾン mECT
13:00-16:00	病棟業務 リエゾン・ カンファレンス	外来再診	病棟業務 リエゾン	病棟業務 緩和ケアカンファレン ス・回診	病棟業務 リエゾン
16:00-17:30	病棟カンファレンス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟医長回診
18:00-19:00	論文抄読会		クルズス		

一例を示した。外来再診1日/週、外来初診1日/週とし、各専攻医によって曜日は異なる。外来初診は専攻医1年目は予診、2年目は本診。mECTは当番制で、1回/週担当。リエゾンは、一般リエゾン、救急リエゾン、産科リエゾンからなり、各専攻医は適宜ローテートする。

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

① 連携施設：埼玉県立精神医療センター

週間計画【1. スーパー救急病棟を中心とした基本的研修】

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	
	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	9:00～10:00 病棟科長・医長による保護室回診	
	9:30～11:30 電気けいれん療法		9:30～11:30 電気けいれん療法	10:00～ 薬物療法CC ^{※1}	9:30～11:30 電気けいれん療法	
午後	13:30～14:00 病棟カンファレンス	12:30～13:00 病棟運営会議	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	13:30～14:00 病棟カンファレンス	
		13:30～14:00 病棟カンファレンス			16:00～ 新患CC ^{※2}	
5時以降	17:00～ 医局会					

・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。

・医局勉強会：隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)

※1… スーパー救急病棟入院患者の薬物療法の評価

※2… 主にスーパー救急病棟に新規入院した患者のCC

週間計画【2. 依存症病棟を中心とした研修】

		月	火	水	木	金	土日
第1週	午前	酒歴・薬歴発表 または	病棟LIFE ^{※1} 外来アルコールミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	再飲酒・再使用予防トレーニング (CST)	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室	薬物家族教室 外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC ^{※2}		
第2週	午前	酒歴・薬歴発表 または	外来ミーティング	入院患者のための勉強会	ウォーキング 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 断酒会紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション 外来アルコールミーティング	ダルクメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	ウォーキング反省会 16:00～ 依存症CC		
第3週	午前	酒歴・薬歴発表 または	病棟LIFE 外来ミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会	断酒会参加 アルコール家族教室 19:00～20:00 NAメッセージ	栄養指導 マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	スマイルイベント または レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第4週	午前	酒歴・薬歴発表 または	外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 14:00～15:00 AA紹介 17:00～ 医局会	レクリエーション アルコール家族教室	マックメッセージ 薬物家族教室 外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		
第5週	午前	酒歴・薬歴発表 または	病棟LIFE 外来アルコールミーティング	入院患者のための勉強会	作業療法 外来アルコールミーティング	CST	
	午後	12:30～ 病棟運営会議 17:00～ 医局会		外来LIFE	レクリエーション 16:00～ 依存症CC		

- ・毎日8:30～9:00 病棟申し送り 9:00～9:15 朝の病棟患者ミーティング 13:30～14:00 病棟カンファレンス
- ・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。
- ・医局勉強会：隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)
- ・依存症病棟ウォーキングプログラム 月1回

※1… 薬物依存症再発防止プログラム

※2… 主に依存症病棟に入院した患者のCC、動機付け面接ロールプレイ

週間計画【3. 児童・思春期病棟を中心とした研修】

	月	火	水	木	金	土日
午前	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り	8:30～9:00 病棟申し送り 10:00～11:30 家族教室	
午後	13:00～13:30 病棟運営会議 13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 男女別グループ活動 16:00～16:30 農作業	14:00～15:30 不登校児のための 外来グループ活動 15:30～16:00 患児によるコミュニ ケーションミーティング(隔週)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:30 病棟ミーティング (集団精神療法)	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:15～15:15 OTによるレクリ エーション	13:30～14:00 病棟カンファレンス 14:45～15:45 SST 15:30～16:30 グループ活動「鉄 道友の会」 15:30～16:30 学校病棟CC ^{※1}	
5時以降	17:00～ 医局会					

- ・週間計画に記載されていない時間は、病棟・外来業務を行う。
- ・医局勉強会:隔週金曜日12:30～13:00(症例検討、論文レビュー等)
- ・児童思春期病棟ウォーキングプログラム 月1回

※1… 児童思春期病棟に入院中で院内学級に登校している児童のCC

② 連携施設：自衛隊中央病院

曜日	時間	事項
月曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1330	病棟カンファレンス
火曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1300	入院診療
水曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1300	入院診療 S S T
木曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1300	入院診療
	1600	抄読会、勉強会
金曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1300	入院診療
	1330	復職支援会議（毎月）

③ 連携施設：山田病院

	月	火	水	木	金	土
8:45-9:00	ブリーフィング					
9:00-12:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務
13:30-17:00	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	行動制限カンファレンス	外来業務 病棟業務
	中間カンファレンス		薬剤勉強会		症例検討会 医局会 薬剤勉強会	

④ 連携施設 : 武里病院

	月	火	水	木	金
9:00-9:30	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:30-10:00	回診	回診	回診	回診	回診
10:00-12:00	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務
13:30-17:00	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務

⑤ 連携施設：平沢記念病院

曜日	時間	事項
月曜日	9:00	入院診療
	10:00	修正型電気けいれん療法
	11:15	ケース・カンファレンス（時間変更あり）
	12:00	医局昼食会
	13:00	入院診療
	16:00	ケース・カンファレンス
火曜日	9:00	外来診療・入院診療
	13:00	外来診療・入院診療
水曜日	9:00	外来診療・入院診療
	13:00	外来診療・入院診療
	14:30	急性期病棟多職種カンファレンス（毎月）
	16:00	臨床心理カンファレンス（毎月）
木曜日	9:00	外来診療・入院診療
	13:00	外来診療・入院診療
金曜日	9:00	入院診療
	10:00	修正型電気けいれん療法
	13:00	外来診療・入院診療

ほか PSG, MSLT 検査（曜日固定せず）

⑥ 連携施設 : 六番町メンタルクリニック

	月	火	水	木	金	土
12:00-17:00	外来	外来	認知行動療法	外来	外来	外来
17:00-20:00	外来	外来	認知行動療法	外来	外来	

⑦ 連携施設：自衛隊札幌病院

曜日	時間	事項
月曜日	0830	入院診療 外来診療（陪席）
	1300	入院診療 外来診療（陪席）
火曜日	0830	入院診療 外来診療（新患、再来）
	1300	院長回診
	1330	病棟カンファレンス
	1600	中枢神経カンファレンス（脳神経外科合同）
	1700	抄読会、勉強会
水曜日	0830	入院診療、入院患者診察 集団認知行動療法
	1300	入院診療 社会技能訓練 集団心理教育
木曜日	0830	入院診療 外来診療（陪席）
	1300	入院診療 外来診療（陪席）
金曜日	0830	入院診療
	1300	入院診療

⑧ 連携施設：自衛隊仙台病院

	月	火	水	木	金
8:15-8:40	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00-12:00	病棟業務	外来初診・ 再診	外来初診・ 再診	外来初診・ 再診	外来初診・ 再診
13:00-16:45	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務・ 病棟カンファ	院長回診・ ケースカンファ
16:45-17:15	夕カンファ	夕カンファ	夕カンファ	夕カンファ	夕カンファ

⑨ 連携施設：自衛隊横須賀病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来 陪席 アナムネ	外来 再診担当	抄読会「 外来 陪席 アナムネ	外来 再診担当	外来 陪席 アナムネ
午後	リエゾン カンファレ ンス	リエゾン クルズス	リエゾン 地域連携 (ケースワ ーク)	精神科病棟 (自衛隊中 央病院等)	リエゾン クルズス (小テスト)

⑩ 連携施設：自衛隊福岡病院

	月	火	水	木	金
午前	外来 初診・再診	病院カンファレンス 外来 初診・再診	外来 初診・再診 院長回診	外来 初診・再診	外来 初診・再診
午後	病棟業務	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 勉強会	病棟業務	病棟業務

⑪ 関連施設 : 自衛隊岐阜病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00-12:00	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン	外来業務 リエゾン
13:00-17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00-16:00	院長回診				

⑫ 関連施設：自衛隊阪神病院

	月	火	水	木	金
午前	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務	外来 病棟業務
午後	外来 院長回診	病棟カンファ レンス	外来 病棟業務	メンタルリハビリテ ーションセンターカンファ レンス	病棟業務

基幹施設：防衛医科大学校病院

8月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出 日本うつ病学会参加（任意）
9月	日本生物学的精神医学会（任意）
10月	躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会（任意） 日本児童青年精神医学会総会（任意） 日本認知・行動療法学会（任意）
11月	東京精神医学会参加・演題発表 日本総合病院精神医学会（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	埼玉精神医学懇話会参加・演題発表
2月	SR1・2・3 研修中間報告書提出
3月	東京精神医学会参加・演題発表 日本統合失調症学会（任意）
4月	日本認知症学会学術集会参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会（任意）
7月	東京精神医学会参加・演題発表 埼玉精神医学懇話会参加・演題発表 日本神経精神薬理学会（任意）

① 連携施設：埼玉県立精神医療センター

4月	オリエンテーション
5月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	埼玉精神医学懇話会参加
8月	埼玉子どもどころ臨床研修会参加
9月	埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
10月	
11月	
12月	
1月	埼玉精神医学懇話会参加
2月	全国児童青年精神科医療施設協議会研修会 埼玉県精神神経科医会学術講演会参加
3月	総括的評価

【児童・思春期症例】

- ・外部講師による児童思春期症例検討会 月1回
- ・ADHDの親たちへのペアレントトレーニング/10回1クール、年2クール

【依存症関係】

- ・依存症治療研究部長による集中講義 全6回

【教育・研究入門講座】依存症治療研究部長により、新しい知見・技術の紹介、研究倫理の指導、データ収集法・解析法等統計手法等の教育を適宜行う。

【職員全体研修】医療安全、倫理、危機管理、救命救急処置、静脈血栓塞栓症予防、感染対策、精神保健福祉法と人権、措置入院にかかる法律の理解と実際、行動制限最小化、チームSTEPPS、危険予知トレーニング、無断離院シミュレーション等

② 連携施設：自衛隊中央病院

8月	オリエンテーション
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	日本小児精神神経学会学術総会参加（任意）
11月	東京精神医学会参加（任意）
12月	
1月	東部方面衛生学会参加・演題発表
2月	防衛衛生学会参加・演題発表、
3月	日本統合失調症学会参加（任意）
4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会総会参加（任意）

③ 連携施設：山田病院

4月	オリエンテーション うつ病リワーク研究会年次研究会参加（任意）
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 薫風会学術交流会参加・演題発表 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	
8月	日本うつ病学会総会参加・演題発表（任意）
9月	多職種協働研修会参加
10月	日本精神科救急学会参加・演題発表（任意） 東京精神科病院協会学会参加（任意）
11月	日本精神科医学会学術大会参加・演題発表（任意）
12月	認知症かかりつけ医研修会参加 日本認知症学会学術集会参加（任意）
1月	認知症かかりつけ医研修会参加
2月	
3月	医療・介護連携研修会参加

④ 連携施設：武里病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会大会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	日本認知症学会学術集会参加
1月	
2月	
3月	

⑤ 連携施設：平沢記念病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会大会参加
7月	日本睡眠学会定期学術集会参加 東京精神医学会学術集会参加
8月	日本うつ病学会総会参加
9月	
10月	
11月	東京精神医学会学術集会参加
12月	日本認知症学会学術集会参加
1月	
2月	
3月	東京精神医学会学術集会参加

ほか、認知症家族会、所沢認知症ネットワーク、院内症例検討会など

⑥ 連携施設：六番町メンタルクリニック

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	日本うつ病学会総会参加
9月	
10月	日本認知・行動療法学会
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

⑦ 連携施設：自衛隊札幌病院

8月	オリエンテーション
9月	日本児童青年精神医学会学術総会参加（任意）
10月	日本小児精神神経学会学術総会参加（任意）
11月	
12月	
1月	北部方面衛生学会参加・演題発表
2月	防衛衛生学会参加・演題発表、 日本集団災害医学会総会参加（任意）
3月	
4月	
5月	日本トラウマティック・ストレス学会参加（任意）
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会総会参加（任意）

⑧ 連携施設：自衛隊仙台病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	防衛衛生学会参加
3月	

⑨ 連携施設：自衛隊横須賀病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	防衛衛生学会参加
3月	

⑩ 連携施設：自衛隊福岡病院

4月	
5月	日本トラウマティック・ストレス学会参加（任意）
6月	日本精神神経学会
7月	日本うつ病学会（任意）
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	日本社会精神医学会（任意）
2月	防衛衛生学会 西部方面防衛衛生学会
3月	日本社会精神医学会（任意）

⑪ 関連病院：自衛隊岐阜病院

4月	
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	防衛衛生学会参加（中央、地方）
3月	

⑫ 関連病院：自衛隊阪神病院

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	防衛衛生学会（東京）
2月	中部方面衛生学会
3月	